

折に触れ 四字熟語

NO. 336 『星火燎原』 せいか りょうげん

< 意味 > 初めは小さな勢力でも、次第に勢力を増して侮れなくなること。

< 出典 > 『後漢書』周紆伝

表 言 : 大正年間の米騒動は、富山県魚津町の婦人たちの集会に端を發し、星火燎原の勢いで全国に広まった。

語 釈 : 「星火」は小さく見える星のような小さな火。「燎原」は野原を焼き払うこと。反乱や一揆などは、初めはその力が小さくても次第に力を増していき、やがて防ぎようがなくなることをたとえたもの。

一 言 : 参議院選挙は21日、全議席が確定し、自民、公明両党は計47議席にとどまる大敗で、非改選を合わせて参議院全体の過半数に届きませんでした。衆議院に続いて参議院でも少数与党に陥る状況となりました。勢いを見せたのは国民民主党と参政党で、特に参政党はわずか5年前の2020年4月に結党されました。その小さかった党が今やこの熟語の意味のように衆議院3人、参議院15人の勢力に伸長しました。

参照文献 : 岩波書店「四字熟語辞典」